

# 第40回 うつのみやこども賞だより

## 令和5年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『金色の羽でとべ』

高田 由紀子／作 (小学館)

～読んだ本の感想よ～



令和5年12月3日

読めは  
愉快だ  
宇都宮  
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

- 大和が音楽室のかべに穴をあけてしまったときはびっくりしたけど、それは、なおちゃんをかばうためだったからすごいと思った。
- 空良は、すごいなと思った。思っていたのとちがうポジションで絶ぼうしても、それなりに努力していた。それに動かされる玲たちも楽しそうで、いいなと思った。
- バレーボールについて、わたしは何も知らなかったけど、チームワークについて考えられる本でした。
- 大和がけがをした時はこの後どうなるかと思ったけど、みんながーがんとって光がおか戦にのぞめてよかった。
- 空良が、「羽はアタッカーだけでなく、全員についている。」ということに気づけてよかったと思いました。
- 主人こうは自分がやりたかったポジションにはなれないで、キャプテンになってうれしくないと思っていたけど、どのポジションも大切だということが最後に分かって良かったです。

『ごはん食べにおいでよ』 小手鞠 るい／作 (講談社)

- 一番最後まで読んで、はじめて全ての話がつながって、とてもおもしろかったです。
- 料理が上手ですごいなと思った。本の話や料理の話は難しかったけど、面白かった。
- 成海さんが死んでしまって、悲しいのに雪はおちついてたのはすごいと思った。由月くんが一人で家に入れないときに、雪が家にさそったのはやさしいと思った。
- 成海さんのために作った弁当がアメリカの店で作られるようになって、雪にすごいなと思いました。自分でも料理を作ってみたくなりました。
- やくそくをずっとして、ゆめがかなえていいなと思う。

『沙羅の風』 松 弥龍／作 (国土社)

- 沙羅が自分の気持ちをはっきりと理解し、そこから行動にうつすのがすごい！
- 怜子さんは、怜子さんのお母さんからぎゃくたいをうけてきてつらい思いをしてきたけど、つらい思いだけではなく、愛されていると思うときがあってよかったなと思いました。
- うみねこの料理はごちそうばかりで、いい場所だなと思いました。
- 沙羅が怜子さんの過去を知ったときに、「怜子さんに愛されていないと思ったことは一度もないよ」と言っていて感動した。

『あきらめなかった男』 小前 亮／作 (静山社)

- 海に流されて、ついた先は、知らない外国だったなんて、こわいなと思いました。
- 最後に残ったのは2人だけなのに、10年、独学でロシア語をかくとくしたり、食料をかくとくしたり、さまざまな人に助けられていたのがよかった。
- 漂流しても、あきらめずに日本を目指しているのがすごいと思った。エカチェリーナ二世に直接許可をもらいに行くところが、読んでいる方もドキドキした。
- さいごには生きて帰れて、本当にすごいと思ったし、よかったと思いました。